

Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe
Chairperson : Michiyo Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



「菖蒲浴衣」より

謹賀新年

舞踊集団 菊の会

尾上菊乃里事

代表 畑 道代

昨年中も一方ならぬ御厚誼を賜わり、誠に有難うございました。

菊の会にとって大切なことは、時代に即した作品創りと、それを演じられる人材の育成とがあります。

そのことを目指して、三十七年間頑張ってきました。

また各地の教室の責任者を中心とした方たちが頑張ってきて下さった、言わば会の土壌作りとしての活動には、本当に目を見張るものがございます。

菊の会の公演としまして、各地の教室の皆様による教室発表会がございます。今年七月二十五日に板橋区立文化会館で行われます。この教室発表会も今年で三十六回目を数えるに至りました。今年、昨年までの曲目を振り返りつつ、更にもう一歩進んで皆さんに喜んで頂ける曲目、また今後に残して行ける曲目を念頭に置き、より一層充実した作品を集めて行いたいと考えています。

またその教室発表会が行われる五日前の二十日には助師、担当講師と公演メンバーで、以前「幸舞の道」として行ったまま出来なかった公演を行いたいと思っております。

今年二月にメキシコへ、また七月と十一月にはトルコに於きまして公演を行う予定であります。

今年も一同更なる研鑽をして参りますので菊の会への御声援を何卒宜しくお願い申し上げます。

平成二十二年 元旦

2009年舞踊集団菊の会公演

「日本のおどり」紅葉に舞う

(12月1日タワーホール船堀所見) 感想とコメント



舞踊評論家
平野 英俊



昨年の9月10日、長崎県諫早市みはる台小学校で「菊の会」の「ワークショップ」を見た。諫早市が街をあげて「のんこの祭」が行われる直前のことだった。諫早市は「諫早浮立」も

あり、みはる台小学校地区の土師野尾という所は古代の遺物が出土されている。子どもたちはすばらしい自然環境の中で実のびのびと育てられてきた。菊の会は「菊の会」の「ワークショップ」は畑代表が地元から伝承した八木節の踊り。円陣の子どもたちは指導の飯田栄志さんの「ハイふりむいて」が気に入ったらしく、踊っているうちに全員が一勢に「ふりむいて」を囃子ことばに踊った。子どもたちの楽しそうに高揚した表情が忘れられない。囃子ことばというのはこうして生まれるのだろう。そのとき、私はいつそ、この学校だけの「ふりむいて踊」にしたいと思

った。教育は画一と同時に、学校の特性、子どもたち一人一人の個性があつていい。「日本人の心」を踊る「菊の会」の原点は「民俗のうたとおどり」の採集から始まったと私は思っている。つまり、農業、漁業、林業、働く人々の心を演じ続けたことが今の「菊の会」の財産である。今回の「日本のおどり」は「紅葉に舞う」と

題する。第一部の「菊の泉」は「一人立する心構えの曲」として捉え、芸というものの無限の広がりを若い女性に託して表現される。「峠の万歳」は門付の「万歳」の太夫と才蔵の仕事を終えた後の別れの話、狂言舞踊「茂登木」は大

名と太郎冠者、奥方らが登場するおかし味のドラマ。第二部は「菊の会舞踊選集」で「花に舞う」の第二弾「秋桜に舞う」(畑道代構成・振付・照井芳男照明)。日本舞踊に親しみやすさを求めて、小品舞踊を構成している。衣装は現況からみた日本舞踊のノスタルジー。これらの踊りは畑というスターの登場があつて成り立つもので、若い演じ手だけで精一杯カバーしているもの、畑の想いの「本物」には成り得ないのではないだろうか。なんとも寂しい想いがした。子どもたちと一体となる若い人たちの活動ぶりを見ていて、これからの新しい「菊の会」は育てるのではなく育つことを支援する力だという想いが強かった。



Mail BOX

昨年の11月で京都の市街地より大原に居住地を移して満13年になりました。同じ頃菊の会八瀬研修所まで来たお聞きしました。私が大原に住むようになったのは、すまじゅんの自然の中で作

釘付け状態となりました。特に「祝太鼓」の男性の皆様の息の合った見事なバチさばき。最後の「阿波踊り」の盛り上がりは本当に心がワクワクしました。ぜひ、この豪華な舞台をたくさんの人

人間ありき

舞踊家の条件

(社)現代舞踊協会常任理事
石井みどり・折田克子舞踊研究所主宰
折田 克子

思い込み! そのつもり! 確証無き道を全身で会得する修業でもあるでしょう。

舞踊家私共のジャンルは元来創作舞踊と申しましたように、踊り手であると同時に多くの方々は振り付け家でもあり、公演の折には其の先生の作品の表現者、理解者として立たねばなりません。日常のボディートレーニングは足、腰、(丹田)を基本に上半身の自由を獲得する為のオリジナルな総合的訓練が組まれます。それはレッスンのパ(形)技術を組み合わせる事が無い、たえず其の作品に必要な新しい動きが要求されるからです。音楽は耳で聞くことが可能。絵は目で見る事が出来、しかし己を見、知ることは至難の業。

幸い私共は自己活性の身体言語の場で勝ち負けではなく、それぞれの能力開発におしむ人、本気の人、何れも此の文明文化のバランスが狂いつつある現状でこそ、人間ありき。の声を発信し続けねば、との思いは強くなる昨今です。



昨年、琉球舞踊が国の重要無形文化財の一つに指定され、第一次の総合指定保持者が認定されました。いわゆる日本舞踊に先んじる形です。日本舞踊の概念は広いのですが、改めて菊の会が発行する『日本のおどり』の文字を眺めつつ、日本の風土が育んだ伝承を踏まえて新しい「おどり」



舞踊評論家
見玉 信

「紅葉に舞う」の世界

に結びつけようと長年取り組んできた畑先生の仕事を振り返っています。

その「日本のおどり」を冠した菊の会秋公演が、昨年十一月から十二月にかけて各地で行われました。「紅葉に舞う」のサブタイトルがついています。第一部は、長唄舞踊「菊の泉」清元舞踊「峠の万歳」と長唄による狂言舞踊「茂登木」の三番。第二部が畑先生の構成・振付により『舞踊選集 秋桜に舞う』全九場。古典と擬古典の新作、古典の技法を駆使し民族舞踊に光りを当てる創作……の二部構成は、菊の会のスタイルと言っているかと思えます。十一月十三日の金沢・石川県立音楽堂邦楽ホール公演と、十二月一日江戸川・タワールホール船堀公演を見る機会を得ました。「第一部の女性陣の「菊の泉」、



男性陣の「峠の万歳」は、ともに酒が隠し味の感があります。菊酒で知られた酒どころ石川県で見ると。しっとりとしみじみと。作品の持つ味わいの違いに、秋の様々を思い浮かべました。原さんと飯田さんのコンビが、私には目新しい。「茂登木」は、それぞれの芝居心が楽しめず、船堀ではずいぶん客席の笑い声が聞こえたのに比べ、金沢はおとなしかった印象。お国柄を思ったことです。

第二部では、特に「平成豊年踊」の群舞に菊の会らしい澁刺と楽しさが溢れます。フィナーレの「平和への道」は、最近益々身に沁みる。「大空に舞う」の武井さん葛西さんコンビにも現れているかと思いますが、近年の若い舞手たちの成長が頼もしく目に映ります。これが結論です。

八瀬・大原に 13 年前より生活して



宮下 靖子バレエ団 代表
コンポーザー・ピアニスト
宮下 和夫

3 年程前よりご縁があり春と秋の研修所公演を見させて頂くようになりました。

昨年の秋の公演には現在 NHK のテレビ番組「猫のしっぽとカエルの手」で有名なベニシアさんと一緒に見させて頂きました。本格的な舞台と100人位の客席での公演（今回は7公演）は本当に贅沢な催しで毎回感動しております。第一部での古典舞踊における繊細な表現、狂言舞踊の男性の豪快な舞い。第二部の民族舞踊詩で様々な日本各地の踊りを楽しみ、一公演でこんなにバラエティ豊かな舞踊公演は珍しいと思います。照明、衣裳にもこだわりが感じられてずっと最後まで舞台上に



大和楽「蝶」

したかったからです。今でも毎朝1ページの作曲をしています。



八瀬公演終了後に宮下氏（左側）とベニシアさん（中央）と記念撮影

日本の代表的バレエ振付家石井潤（在京都）の3作品を全京都洋舞協会の皆様が踊ります。

お付き合いは始まったばかりですが、同じ八瀬・大原の住人として、舞踊文化が日本人の生活文化となるよう共に頑張りたいです。舞踊家が踊ることで生きていける世界を創りましょう！芸術は人の心の栄養ですよね！畑道代先生、菊の会の皆様のますますのご活躍を心より祈っております。

一昨年9月の文化庁巨匠芸術交流支援事業のブラジル公演の時より、私の宮下靖子バレエ団も参加するようになりました。私達は初めての外国公演でしたので菊の会様にはいろいろと助言を頂き本当にありがとうございました。

昨年のメキシコは私の制作で今年の1月31日にグアダハラ市デコジャード劇場にて現在の

夢と希望を運んだ若田光一宇宙飛行士と スペースシャトル乗組員が菊の会へご来館



若田宇宙飛行士（後列左4人目）とSTS-127クルー一行

日本人として初の宇宙長期滞在第3回の飛行を行い日本実験棟を完成させた若田光一宇宙飛行士とSTS-127ミッションクルーが忙しい合間に菊の会を訪問された。一行は、スペースシャトル、マーク・ボランスキー機長（コマンダー）、トーマス・マーシュバーン宇宙飛行士、とその夫人、ホーリー・ライディングスNASAフライトディレクターが菊の会スタジオを訪れ、公演メンバーと交流の一夜を過ごしました。

人類的に意義深いミッションを終えた一行は様々な行事に出席の為来日、菊の会

では幾つものサプライズを用意して歓迎しました。

まずはじめに一足早く到着していたクルーのご夫人たちに和服の着付けをして、菊の会の女性メンバーと共に玄關で日本式のお出迎。これには「君は本当に僕の妻かい？」と青い目を輝かせ大喜び、広間で和食を召し上がって頂いた後、飛行士たちも紋付袴姿に変身してもらうと今度は奥様達が感激、やがて聞こえてきた生演奏の神楽囃子につられて稽古場へ、そこでは公演メンバーが歓迎の舞台を披露。「江戸太神楽寿獅子」では、最

後の決まりで獅子の口からスペースシャトルが飛び出し、クルーは大喜び、そこで公演メンバーの佐竹永光さんの長男、若田氏と同名の光一君が英語で歓迎のスピーチ。つづいて日本髪を結って、すそ引きに長絹の衣裳で「寿菊三番叟」、勇壮な「祝太鼓」の演奏、そして「万歳くづし」、「因幡大黒舞」、「せり込み蝶六」と賑やかに綴り、畑道代代表から心のこもったプレゼントにクルー一行は「ミッション成功に次ぐ感動だった」と謝辞を述べられ、公演メンバーと記念の写真に納まり感激の面持ちで菊の会を後にしました。

KIKUNOKAI INFORMATION

2010年菊の会公演予定

【日本のおどり】～春光に舞う～

春光の大地に百花繚乱と舞い躍る

3月2日(火) サンシティ越谷市民ホール(小ホール)

3日(水) 東村山中央公民館

【開演時間】14:30 / 18:30

【入場料】5000円 全席自由(当日5500円)

【京都八瀬アトリエ公演】～早春に舞う～

3月26日(金) 12:00 / 15:00 / 18:30

27日(土) 12:00 / 15:00

28日(日) 12:00 / 15:00

【会場】京都八瀬研修所

【入場料】4500円 全席自由(当日5000円)

【菊の会公演～日本のおどり～】主催：民主音楽協会

4月9日(金) 関内ホール(横浜) 14:00 / 18:30

11日(日) よみうりホール(有楽町) 12:00 / 15:00

【友の会総会・懇親パーティー】

4月24日(土) 東京會館(丸の内本館)

【時間】11:00 友の会総会

12:00 友の会懇親パーティー



昨年の友の会懇親パーティーにて小惑星kikunokai 12388の認定書を渡辺和郎さんから受ける畑代表

■お問い合わせ

菊の会事務局
03(5983)6001

京都八瀬研修所
075(712)8701

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。



西森ルイス弘志団長



第5回パラナ州経済使節団が 菊の会スタジオへご来館

昨年10月19日、2008年ブラジル公演の際に多大なご尽力を賜った、パラナ州議会西森ルイス弘志議員を団長とする第5回パラナ州経済使節団(カストロ市長、マンダグアリー市長、ウピラタン市長、エンジェネイロ・ベルトロン市長、ピライ・ド・スール市長、マリンガ市商工会議所会頭 マリンガ国際交流協会会長ほか一行24名)を菊の会スタジオにお招きし、心尽くしの日本料理を堪能していただき、公演メンバーによる歓迎の舞台を披露、感動的な交流の夕べとなりました。

